

連載：ひと

(ひと)ロバート・J・ラングさん 折り紙工学の第一人者

2014年9月29日05時00分



折り紙工学の第一人者、ロバート・J・ラングさん＝東京都文京区、小玉重隆撮影

「Origami」の科学技術への応用は、いま、米国ではちょっとしたブームという。精巧な作品の数々が美術館で展示されているだけでなく、「折り紙工学」の第一人者として企業や大学から技術支援の依頼が絶えない。

6歳で折り紙の本と出会い、「紙1枚から何でも作れる」と衝撃を受けた。友だちが野球で遊んでいても、家で折り紙を折り続けた少年時代。大学院で物理を学び、米航空宇宙局などで半導体レーザーを研究していた時も、帰宅後は折り紙を手放さなかった。

ある日、「折り紙のデザインに数学の手法が使えるのでは」と気づく。アートから工業用までコンピューターが折り方を設計する無料ソフトを開発。趣味だった折り紙が、いつしか本業になった。

「数学はパターンと関係性の学問。折り紙も同じで、シンプルほど美しい」

太陽電池パネルや災害用の仮設住居、体内に入れる医療機器、車のエアバッグ……。小さくたたためて、大きく開く折り紙の技術を応用した製品の開発に、コンサルタントとして携わる。

芸術家としての熱意はいまも衰えていない。これまでに考案した折り紙の新デザインは650を超えた。最近のお気に入りにはカブトムシという。海外に行っても観光より折り紙。機内で、カフェで、新作を考えている。(文・岡崎明子 写真・小玉重隆)

*

Robert Lang (53歳)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © 2014 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.